イヌワシの分布及び生息環境

I 調 査 方 法

イヌワシの県内全域にわたる分布現況，および過去における生息状況を把握するためのアンケート調査と，生息確認ならびに行動追跡のための現地調査を中心に，聞き込みや文献による調査を加えて分布を明らかにし，また地形図，植生図，現地調査により，イヌワシの分布する生息環境の特徴等を調べた。

アンケート調査は別表の様式により，イヌワシの観察年月日，観察場所，羽数などの資料を集めるとともに，剝製の所在や情報提供者を知る目的で1978年3月に行なった。対象としたのは市町村林務課，県林業事務所，営林署担当区，自然公園指導員，猟友会会員，野鳥の会会員などイヌワシについての関心や，実際に見る機会のあると考えられる機関や個人である。調査範囲は県内全域と，隣接する富山，福井，岐阜の各県一部である。ただし集計には，その中から本県に関係する記録のみを用いた。

次に現地調査は主として金沢大学理学部生物学科の学生の協力のもとに，生息の予想される地域へ入りイヌワシの確認に努めた。そして一部の地域においては，行動圏や隣接する番との関係，巣の場所などを明らかにするため，トランシーバーを用いて同時観察を行なうことにより行動を追跡した。調査期間は昭和52年から昭和59年までであるが，集計にはそれ以前の記録も含めた。

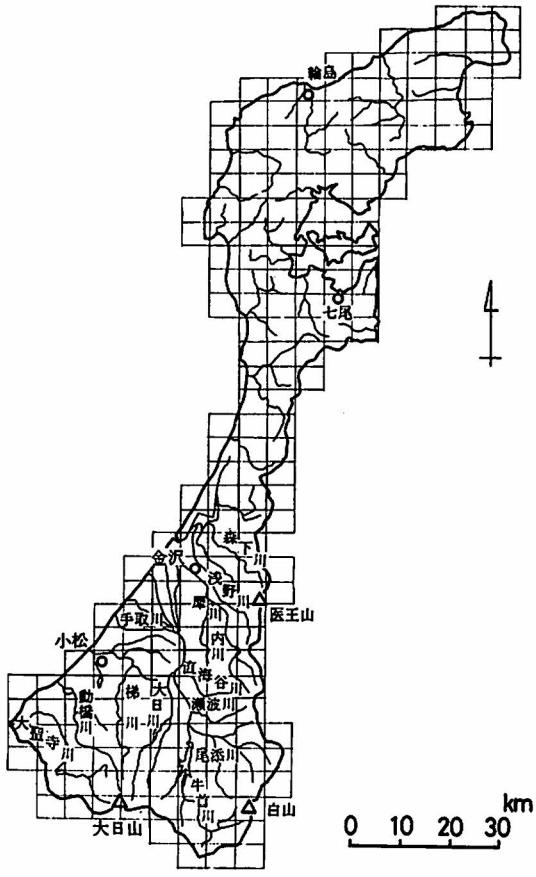
II アンケート調査による生息状況

アンケートの発送数は327通で，回収数177通，回収率54.1%であった。その中で「今までにイヌワシ（らしい鳥）を見たことがある。」と回答したものは60通，また「イヌワシがいる，または昔いたことがあるという話を聞いた」と回答したものは34通であった。

イヌワシは発見の比較的困難な鳥で，全国的には観察例はあまり多くない。ところが今回のアンケート調査では多くの観察例が報告された。これはこの鳥が本県の県鳥として一般の人に広く知られていることの現われのひとつとみることができる。なおトビやクマタカなどとの誤認を疑ってみる必要はあるが，その後の現地調査で確認している地域が多く，大部分は信頼できるものと思われる。その中から，同一の記録と考えられるものや，記載が不十分なもの，また誤認である可能性の強いものを除いて以下の集計を行なった。なお分布図作成においては第1図のように，国土地理院発行の2万5千分の1の地形図を縦横2等分して作った1区画を単位とするメッシュ図で表現した。

1 年代別記録例数

記録された年を昭和29年以前，昭和30年～39年，昭和40年～49年，昭和50年～53年の4区分にすると第1表のようになる。なお区分の際，明確な記載のないもの，たとえば昭和51年～53年等は処理上1例とした。また2つ以上の年代にわたるもの，たとえば昭和48年～53年等は昭和40年～49年，昭和50年～53年それぞれ1例ずつ2例とし，20年前から現在までのような例は3例とした。記録例数は合計138例である。昭和50年～53年の記録例が全体の約半数を占め，近年の記録の多いことを示しているが，このことは必ずしも近年の分布の広がりを示しているとは言えない。それよりも，はっきりした記憶の残っている最近の記録が多く報告されたものと考えられる。そして，過去の記録もかなり



第1図　集計メッシュ図

第1表　アンケートによる年代別イヌワシ記録例数

年　　代	例　数
昭和29年以前	20
昭和32年～39年	19
昭和40年～49年	37
昭和50年～53年	62
計	138

多く報告されていることから，イヌワシの存在が昔から知られていたことがわかる。

2　月別記録例数

次に記録された月（季節）をみてみると第2表のようになる。一年中記録されているが，特に4月から7月に多く観察されている。おそらく，アンケート対象者が山へ入いることの多いこの時期に記録が集中したためであると考えられる。また12月から3月にかけて記録が少ないのは，多雪地帯である県内の山地への入山の困難なことと，この時期のイヌワシの行動範囲が営巣地を中心とする限られたところにせばめられているためと考えられる。

第2表　アンケートによる月（季節）別イヌワシ記録例数

月（季節）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	春	夏	秋	冬	無記入	計
例　数	2	0	3	7	7	10	14	5	3	2	4	2	16	7	7	11	38	138

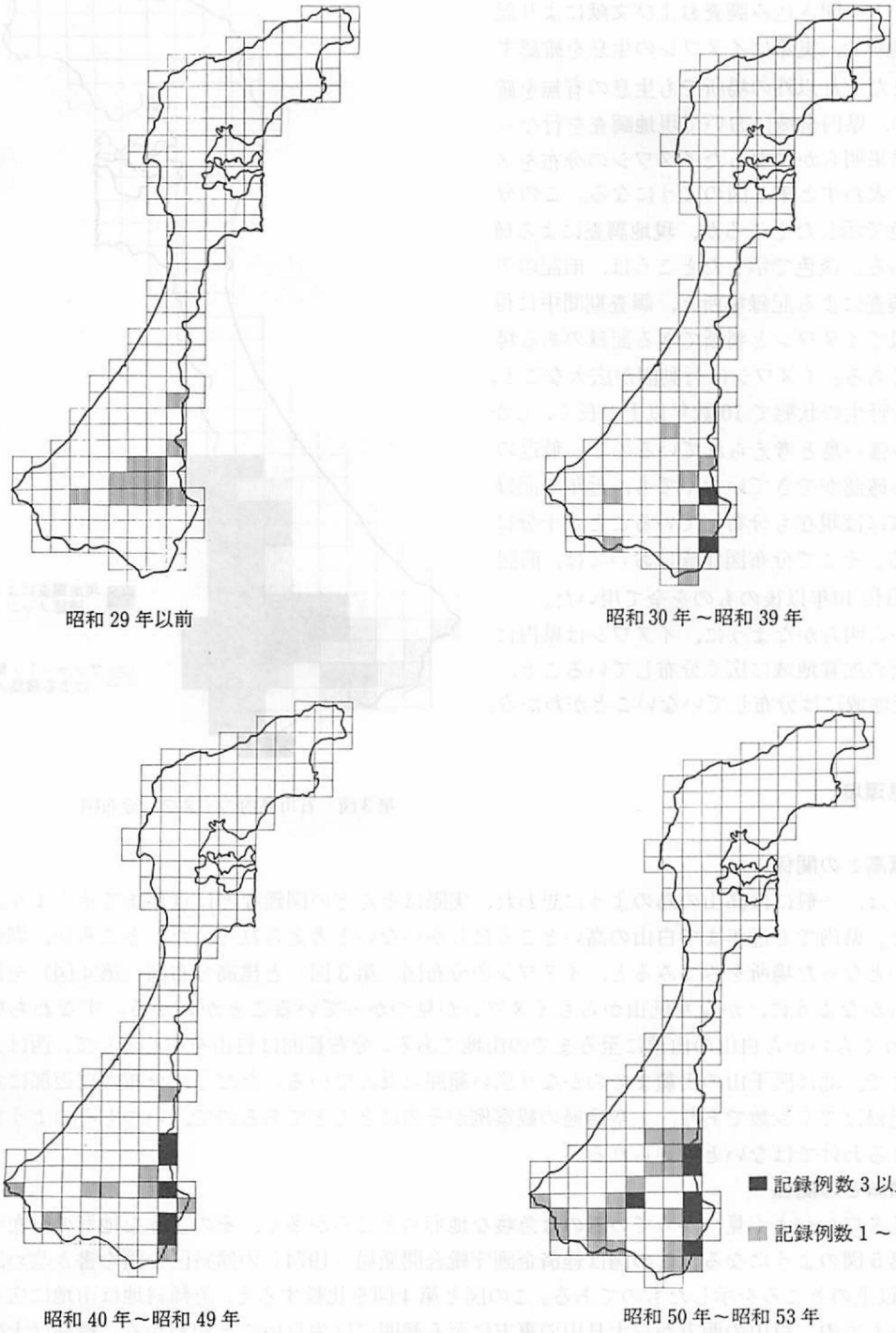
3　水系別記録例数

記録された場所を水系別に集計すると第3表のようになる。県内の中部以南の水系に広く記録されているが，特に尾添川，牛首川，犀川の3つの水系から多く記録されている。これらの地域は，アンケート対象者の入山の機会の多いことに加え，イヌワシの生息していることが昔から知られていたところでもあり，それを反映しているものと考えられる。

以上の結果を年代と場所別にメッシュ図にして表わすと第2図のようになる。ここでは記録例の多いところを区別して表わしてある。古い記録の回答が多くないので断定はできないが，記録メッシュはおおむね変わらないので，過去（少なくとも昭和初期以降）における分布が，現在における分布とだいたい同じであったと推定される。

第3表　アンケートによる水系別イヌワシ記録例数

水　系	例数	水　系	例数
尾添川	35	梯川	5
牛首川	33	動橋川	4
犀川	27	瀬波川	4
大日川	9	浅野川	2
大聖寺川	8	森下川	1
直海谷川	6	不明	4

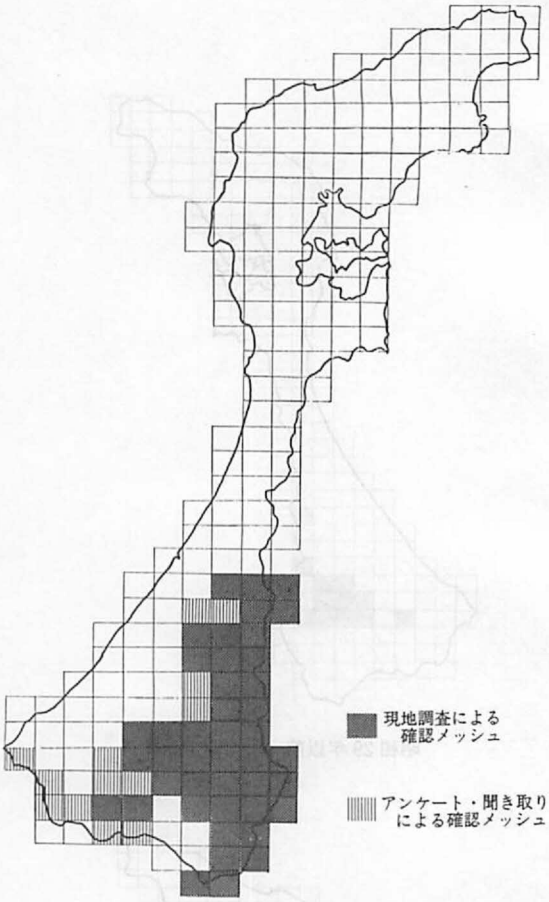


第 2 図　アンケート調査による各年代別のイヌワシ記録分布

Ⅲ　分布

アンケートや聞き込み調査および文献により記録された場所で，実際にイヌワシの生息を確認するため，またそれ以外の場所でも生息の有無を確認するため，県内全域において現地調査を行なった。その結果明らかになったイヌワシの分布をメッシュ図で表わすと第3図のようになる。この分布図で濃色で示したところが，現地調査による確認場所である。淡色で示したところは，前記のアンケート調査による記録場所と，調査期間中に得られた情報でイヌワシと判断できる記録のある場所を示してある。イヌワシは行動圏が広大なこと，また寿命も野生の状態で10数年以上と長く，しかも定住性の強い鳥と考えられているので，最近の調査による確認ができていなくても，近年の記録のある地域には現在も分布していることが十分に考えられる。そこで分布図作成においては，前記の記録で昭和40年以後のものを全て用いた。

分布図から明らかなように，イヌワシは県内には中部以南の加賀地域に広く分布していること，および能登地域には分布していないことがわかる。



第3図　石川県内のイヌワシ分布図

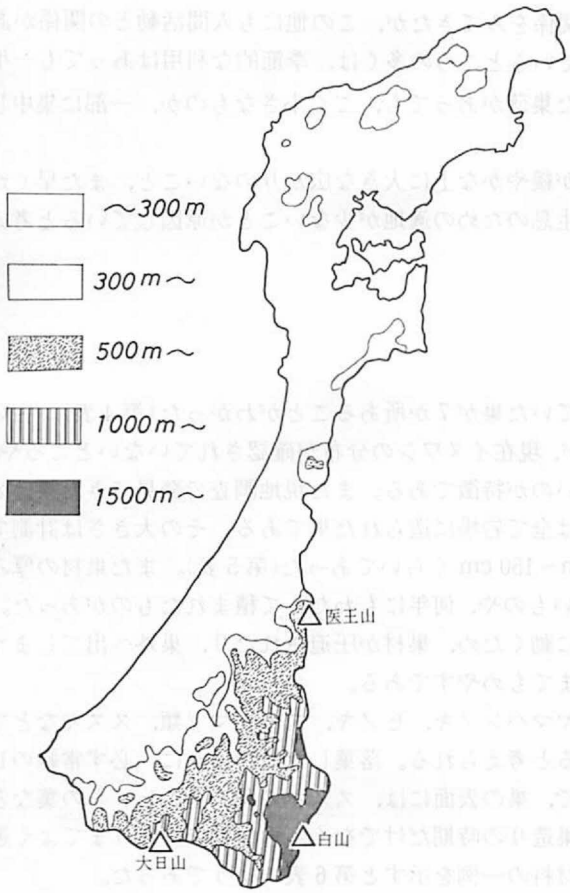
Ⅳ　生息環境

1　標高との関係

イヌワシは，一般には高山の鳥のように思われ，実際ほとんどの図鑑などに近年までそのように書かれていた。県内でも近年まで白山の高いところにしかいないと考えられていた。ところが，調査の結果明らかとなった場所をみてみると，イヌワシの分布図（第3図）と標高分布図（第4図）を比較すると明らかなように，かなり低山からもイヌワシが見つかっていることがわかる。すなわち標高200～300 m くらいから白山の山頂に至るまでの山地である。分布範囲は白山を中心として，西は大日山の西方まで，北は医王山の山麓までのかなり広い範囲に及んでいる。ただし，分布の周辺部にあたる低山の記録はごく少数であり，上空通過の観察例がそのほとんどであるので，いつもそのような低山にみられるわけではないと考えられる。

2　傾斜との関係

次に，イヌワシがよく見つかっているのは急峻な地形のところが多く，そのような地形の分布を図にすると第5図のようになる。この図は経済企画庁総合開発局（1974）の傾斜区分図を書き改め，傾斜度30度以上のところを示したものである。この図と第4図を比較すると，急傾斜地は山地に広く分布しているものの，白山の西方から大日山の東方に至る範囲には少ないことがわかる。標高は十分高い地域であるにもかかわらず，今のところイヌワシもこの付近では見つかっていない。今後の調査で



第4図　地形図（標高分布）

第5図　地形図（急傾斜地分布）

発見される可能性はあるが，いつでも見られる定住地ではないと考えられる。後述するように，イヌワシの営巣地は急傾斜地に見つかっている。イヌワシが人の接近に神経質なことや，飛行には上昇気流をうまく利用していることを考えるなら，イヌワシにとって都合のよい条件をつくり得る急傾斜地が，ある程度まとまってあることがイヌワシの生息上必要となると考えられる。

3　植生との関係

前述したように，イヌワシは県中部以南の山地に広く分布しており，巨視的にみるなら植生図（里見信生　1977）の山地に存在するほとんどの植生に分布しているといえる。ところがイヌワシの飛行には，林の上空を通過する単なる移動のためのものが多く，実際の地上の植生との結びつきを考察することは困難である。ただ，イヌワシのような大型で翼の長い鳥は，よく繁った林の中を飛行することはうまくないと考えられ，実際，現地調査で見られる餌さがしと思われる低空飛行は，草原や低木林である。具体的には高茎草原やその周辺の低木林，伐採跡地，植林されてあまり期間のたっていないところなどである。白山地域は，急傾斜地が多くしかも多雪地帯である関係で高茎草原が広く分布している。このことがイヌワシの分布の一つの条件となっていると考えられる。

以上イヌワシの分布と地形，植生についての関係をみてきたが，この他にも人間活動との関係があると考えられる。つまり，イヌワシの記録されているところの多くは，季節的な利用はあっても一年を通じては人の住んでいないところである。また集落があっても，ごく小さなものか，一部に集中している。

能登地域にイヌワシが分布しないのは，山地が緩やかな上に大きな広がりのないこと，また早くから人間生活が方々で行なわれてきたことなど，生息のための適地が少ないことが原因していると考えられる。

V 営巣地

アンケート調査及び文献調査で，昔使用されていた巣が7か所あることがわかった(第4表)。古い記録が多く，具体的な場所の不明なものが多いが，現在イヌワシの分布が確認されていないところや，分布していても周辺部にあたる低地の記録が多いのが特徴である。また現地調査で発見できた巣は8か所ある。アンケートによる1例を除くと，他は全て岩場に造られた巣である。その大きさは計測できたもので横幅100 cm～210 cm，奥行き115 cm～150 cmくらいであった(第5表)。また巣材の厚みは7 cm～60 cmで，ほとんど巣材の残っていないものや，何年にもわたって積まれたものがあった。雛が成長して巣立ち近くになると巣の中で活発に動くため，巣材が圧迫されたり，巣外へ出てしまうことがよく観察されたので，巣の計測値はあくまでもめやすである。

巣材となっていたものは，ブナ，ミズナラ，ヤマハンノキ，ヒノキ，スギ，マツ類，ススキなどであるが，これは巣のある場所の植生に左右されると考えられる。落葉した枝のほかに，必ず常緑のヒノキ，スギ，マツ類が使用されているのが特徴で，巣の表面には，ススキの葉や茎，ヒノキの葉などのやわらかなものが敷かれていた。また巣材は巣造りの時期だけでなく，育雛期の終わりまでよく運びこまれていた。白山地域のある巣に運ばれた材料の一例を示すと第6表のようであった。

巣は岩棚に積まれたものや，岩場から生えている木を支えにして積まれたもの，岩の穴の中へ積ま

第4表　アンケートおよび文献によるイヌワシの営巣地

番号	場　　所	出　　典	概　　要
(1)	石川郡　鳥越村　釜滑水	横山（1866）	鷹巣とよばれる山（一名虎狼山）に鷲の巣があった。
(2)	石川郡　鳥越村　河原山	横山（1866）	立壁と呼ばれる岩に鷲の巣があった。(4)のアンケートと同じ地域であり，イヌワシの巣と推定される。
(3)	石川郡　吉野谷村　中宮	アンケートNo.1153	明治時代に巣があり，雛にヘビやウサギを運んでいたという。
(4)	石川郡　鳥越村　河原山	アンケートNo.1330他	大正時代，岩壁の杉の木に巣があり，それを中心に2羽でよくせん回していた。幼鳥も観察している。近くに別の岩壁の巣あり。
(5)	金沢市　二俣町(医王山)	アンケートNo.1178	昔，鷲ノ巣岩として知られていたところがある。
(6)	小松市滝ケ原町三童子山	市川（1959）他	「黒岩」に巣があり雛が捕獲される(1959年 4月11日)。それ以前から生息していたという。
(7)	金沢市　見定	熊野，木村（1970）	詳細不明。

第5表　イヌワシの巣の計測値及び方位

番号	横　幅	奥　行	厚　み	方　位
	cm	cm	cm	
(1)	155	133	18	南西
(2)	100	150	60	南
(3)	160	115	45	北東
(4)	210	150	7	南
(5)	120	120	40	南西

第6表　育雛後期に白山地域の1つの巣に運ばれた巣材

種　類	個数
ヒノキ（葉あり）	17
ヤマハンノキ（〃）	9
ブ　ナ（〃）	3
イタヤカエデ（〃）	2
マルバマンサク（〃）	2
ミズナラ（〃）	1
ス　ギ（〃）	1
ススキ（枯）	1
不　明（広葉樹）	1
〃　（葉なし）	2
計	39

れたものなどがあった。いずれの場合も，巣の上方は岩がひさし状になっていて，雨や雪，直射日光をある程度防げるようになっていた。

巣の数は，番で1か所とは限らず，ある番では3か所に巣が見つかっており，これら以外の巣で巣立ったと考えられる幼鳥が観察されているので，また他にいくつかあると推定される。

巣のある環境は，いずれも地形の急峻なところで，その中にある大きな岩場の途中にある棚や穴が使われていた。

VI　捕獲及び保護例

イヌワシの幼鳥が保護されたり，へい死体が見つかった例，及び過去に捕獲された例で，アンケートや文献で明らかとなったものは第7表のとおり10例あった。この中で現在の所在がわかっているものは，(6)，(8)，(9)，(10)であり，いずれも剝製となっている。その計測値等は第8表のとおりである。

この中で例(6)のイヌワシは，捕獲当時生まれて1年目だと推定されているので，その前年の1959年の3～4月にふ化したと推定すると，約22年6か月生存していたことになる。なおイヌワシの寿命は野生では10数年と推定されているが，わが国での確実な記録はない。また飼育されていたもので，わが国で最も長く生きていたものは，長野県の大町山岳博物館で1952年9月～1982年2月の約30年間の記録がある。

第7表　イヌワシの捕獲及び保護例

番号	年月日	場　所	出　典	概　要
(1)	1927年頃	石川郡　鳥越村　河原山山頂	アンケート No.1279	地元の人が銃で撃ち落とした。詳細不明
(2)	1946年10月21日	石川郡　白山下方面の山地	市川(1947)	猫を捕えて格闘中のところを棒で撲殺された。成鳥で市川昌徳氏が剝製にした。
(3)	1947年	石川郡　吉野谷村　大瓢箪山中腹	北国新聞 (1964.11.10)	出作りの裏庭で猫と格闘中を捕獲された。市川氏が剝製にして金沢美大へ。

番号	年月日	場所	出典	概要
(4)	1959年 4月11日	小松市　滝ケ原町　三童子山	市川(1959)	黒岩の巣より雛2羽が捕獲された。1羽は粟津町，他の1羽は金沢市で飼育された。
(5)	1959年 7月	金沢市　堂町	市川(1965)	疲労して飛べなくなった幼鳥が拾われる。飼育後逃亡した。
(6)	1960年 8月	小松市　東山町	北陸中日新聞 (1964,1,12)	小松市芦城公園で飼育されているワシは東山町の水田で捕えられたもの。正木助次郎氏の鑑定で当時幼鳥1年目。
(7)	不明	金沢市　田ノ島町（医王山）	アンケート No.1178	地元の人が銃で撃ち，4人で運んだ。詳細不明。
(8)	不明 (戦前)	石川郡　吉野谷村　高倉山	アンケート No.1195	吉野谷村佐良，山田千代氏宅に剝製としてある。
(9)	不明	小松市　西俣町（？）	アンケート No.1166	旧小松市立西俣小学校に剝製としてある。当地で捕えられたものという。
(10)	1985年 1月13日	金沢市　奥新保町	――	餓死している親鳥が発見される。後で体内から散弾が見つかった。

第8表　県内産のイヌワシの剝製の計測値等

剝製所在地場所	小松市観音下町 西尾小学校	野々市町　扇が丘 金沢工業大学	小松市丸の内公園町 小松市立博物館	吉野谷村　木滑 白山自然保護センター
剝製計測値	mm	mm	mm	mm
全長	—	—	—	870
翼長	630	598	581	640
尾長	—	348	337	350
嘴峰長	43	41.4	28	42.5
跗蹠長	—	114	110	120
翼開長	—	—	—	2010
体重	—	—	—	2.79kg
捕獲年月日	昭和初期以前	不明（戦前）	1960 年 8 月	1985年 1月13日
捕獲地	小松市西俣町（？）	吉野谷村　高倉山	小松市東山町	金沢市奥新保町
その他	体の各部の損傷がひどく、上記以外の計測不能。以前は小松市西俣小学校にあった。	嘴に散弾痕あり。以前は吉野谷村佐良の山田氏宅にあった。	捕獲時，幼鳥。その後1981年10月12日まで小松市芦城公園で飼育。同日死亡（バンブーフット病）。	成鳥（雌），餓死状態。ただし頭部及び足に散弾があり，これが間接的に死に影響していると考えられる。
計測日及びその時の個体の状況	1984年10月15日 (剝製)	1984年 3月12日 (剝製)	1981年10月17日 (冷凍)	1985年 1月14日 (死後数日以内)

イヌワシのアンケート調査用紙

○ご　芳　名　　（　才）○ご　職　業

○ご　住　所　　○ご勤務先又は所属団体名

1. 今までにイヌワシ（らしい鳥）を見たことがありますか。（イヌワシは地方によってワシまたはオオワシとよばれています。）

見たことが …… ある、ない

「ある」とお答えの方は2以下について、「ない」とお答えの方は3以下について、ご回答下さい。

2. 見たときの状況についてお答え下さい。

	（第1例）	（第2例）	（第3例）
㋑ いつ見ましたか。			
＜回答例＞ 昭和30年頃の春、昭和53年1月1日			
㋺ 場　所			
＜回答例＞ 白山の岩間道2,000m付近地獄谷上空、小松市大杉町地内動山西斜面			
㋩ 何羽でしたか。			
＜回答例＞ 1羽、親鳥2羽、幼鳥1羽			
㋥ どこにいましたか。			
＜回答例＞ はるか上空、頭上近く、樹上、地上			
㋭ クマタカやトビと間違えられやすいといわれていますが、どんな点からイヌワシと判断されましたか。（図示でもよろしいです）。			
＜回答例＞ 黒っぽくトビよりひとまわり大きかった。翼の幅が広く尾羽の先端が丸味をおびていた。			
㋬ どのような飛び方でしたか。			
＜回答例＞ 輪を描いて、一直線に、翼をはばたき続けて、翼をふらつかせて、急降下して			
㋣ そのときの鳴き声、行動などお気づきの点をお書き下さい。			
＜回答例＞ キョ、キョと鋭く鳴きながら同じ所を回っていた。			
㋠ そのときの同行者がありましたら、その方の住所、氏名をお書き下さい。			

3. イヌワシがいる、または昔いたことがあるという話をお聞きでしたらお答え下さい。

	（第1例）	（第2例）	（第3例）
㋑ いつごろ			
㋺ どこで			
㋩ 誰の話ですか。			
㋥ 具体的な話の内容			

4. 現在イヌワシのはくせいを持っているところや持っている人をご存じでしたらお教え下さい。（住所、氏名）

5. この人ならイヌワシについて知っているのでは、という人をご存じでしたらお教え下さい。（住所、氏名）

6. その他、イヌワシ、又はこのアンケートについて何なりとお聞かせ下さい。

ご協力有難うございました。今後またイヌワシの情報がありましたら、ご連絡下さい。